



釜本  
邦茂



阿久根  
賢一



## 常に前へ前へと進んでいき、 自分の役割がなんであるかを、自覚するべき (釜本)

**阿久根** また自著の話で恐縮ですが、私たちが認知症ケアに新しい視点を取り入れられたのは、自分たちが常識だと思っていることを、疑うことがきっかけだったんです（第一章「認知症ケア」大転換!）。これはスポーツの選手や、指導者にも通じるものがあるのではないのでしょうか。

**釜本** どんなことも、そうだと思いますね。常に前へ前へと進んでいかないと、物事は始まりません。行動を起こすことで、次はなにをするんだ、もっとこうしたら良くなるんじゃないか。そういう工夫が出てくる。それはスポーツであっても、スポーツでなくても、同じではないかと思います。

**阿久根** 我々も新しいことをやったからこそ、見つかったものもあります。スポーツもおそらく時代とともに、練習方法なども変わってきていると思います。それと同じように、我々の支援の在り方もいつまでも古い方法で、これがいいんだと信じ込んでやっていたのでは、進化や進歩がありません。たくさんの事例やケースを積み重ねてきたからこそ、これまでやってきたことが、実は間違っていたということもありました。

**釜本** いろんなことを実践することによって、どれがベストなのかを見つける。そうしていくと、この人はこういうやり方が良い、この人はこうした方がいいというものが出てくるんだと思います。これはなににでも共通しているでしょうが、やはりまずは、やってみることが大事。その上で、上手くいったならなぜ上手くいったのか。失敗したなら、なぜ失敗したのか。それを考えるんです。「上手くいったから、いいや」で済ませるのではなく、なぜ上手くいったのかを考えないといけない。日本のサッカーも同じで、考えて進めていくことをもっともっとやらないと強くないし、そうしないと失敗したときのダメージも大きい。それはスポーツに限らず、仕事においても自分で考えて行動する人は、どんどん成長しますよ。

**阿久根** 確かに、我々も出来上がったものを壊すところから始めるのは、すごく勇気が必要でした。挑戦し続けるためには過去に築き上げたものを、時にはぶち壊していかないとならないこともあります。その際にはいろんな反発であったり、今あるものを壊すことを由としない人もたくさんいます。ですが勇気を持って挑戦しない限り、新しいものは生み出せない。我々はそれを、ご入居者を通じて学ばせていただきました。そのことをなにかの形にしておきたいなと思って、こうして本にまとめさせていただいたんです。

**釜本** 何事も最初は手探り状態ですけど、その中からなにかを見つけていく。その為には、考えないとけません。僕が子どもたちに、サッカーを教える時には、いつも言うんです。考えなさい、考えなさいよと。教えてくれないからできないではなく、自分で考えろと。率先してそれが出来る人と出来ない人では、伸びしろが違うんですよ。

**阿久根** 仰る通りで、私たちのように支援する側も、教えてもらっていないから出来ないでは通用しません。目の前にいるご入居者、ご利用者と接して、今の自分になにが出来か考えることが大事。教えられてばかりでは、伸びていけないと思いますね。これも本に書いたことですが我々、豊泉家はトライアル・アンド・エラーの精神を重要視しています（第四章「新メソッドが有効なワケ」）。挑戦して失敗しても認められますが、挑戦しない姿勢は叱られる対象になるんです。挑戦していいんだという風土が豊泉家にあるからこそ、新しいケアの視点を得られたのだと思います。

**釜本** 本当にそうですね。何事も、やらないと結果が出てこないですから。サッカーでもよく言うんですよ。点取り屋が相手ゴール前にいて、自分のところにボールが来たのに、他の人にパスを出す。なんで、そんなことをするんだって。ストライカーがゴール前で誰かにボールを渡したら、自分の仕事を放棄したようなものですよ。ディフェンダーが来たからというなら、ディフェンダーを交わしてシュートを打てばいいじゃないか。ストライカーが自分をアピールできるのは、ボールがあってこそで、ボールがないとなにもできない。点取り屋は他のことはなにもしなくても、点を獲ることだけをやればチームに貢献できるんです。

**阿久根** チームの目的や自分の役割を、正しく解釈しないとけませんよね。チームの目的は勝つことで、ストライカーがチームに貢献するためには点を獲る。

**釜本** 自分の役割がなんであるかを、自覚するべきなんです。ストライカーなら、得点を獲る。ディフェンダーやゴールキーパーならしっかり守る。守備の選手で自分の仕事が果たせて、なおかつ余力があるなら、攻撃に参加すればいい。余力がないなら、行くべきではありません。

**阿久根** 自分がなにを求められていて、なにを果たさなければいけないのか。そのためには、なにをしなければいけないのか。考えて行動すればいろんな工夫が生まれて、それが成果へとつながっていく。これはケアの仕事も、スポーツも同じなのですね。